

地域と湧き水

沖繩県

宜野湾市立真志喜中学校 二年 下地 寿奈

私の住んでいる沖繩県は、環境省の調査によると約一二〇〇カ所の湧き水があり、全国で四番目に湧き水が多い県だ。

だが、私の家族や友達の中では、こんなに多くの湧き水があることを知っている者はいなかった。なぜ、多くの湧き水があるのに市民や県民があまり知らないのか。また、湧き水に必要ななどあまりないのだろうか。

昔は水を引く工夫がされていなかったため、当然のように湧き水の場所を把握し、当然のようにそこに水を汲みに来ていた。

しかし、今私達の生活では水汲みをする必要がない。蛇口をひねれば安心安全な水が出てくるからだ。私達は普段、その水で食器を洗ったり、歯みがきをしたりしており、わざわざ水を汲みに出かけなくても水を得られる。だから、湧き水に関心が向かなくなったのだ。

では、湧き水はなくてもいいものなのだろうか。

一般的な生活の中で湧き水を汲んで来てそれを使うことはないが、災害の時には必要になる。例えば、津波がおしよせてきた場合、その時に持ってきたペットボトルでは水量に限りがある。成人男性では一日当たり約二・五リットルの水分の補給が必要であり、体内の水分の二パーセントが失われるとどの渴きを感じ、運動能力が低下、四〜五パーセントになると疲労感や頭痛、めまいなどの脱水症状があらわれる。十パーセント以上になると死に至ることもある。そのため、湧き水のある場所を把握しておく必要がある。さらに、湧き水は飲用水としてだけではなく、洗濯やトイレなどの日常でやっていることにも活用できるのである。

一方で、その貴重な水資源を基地が人体に害のある有機フッ素化合物を高濃度で放出するという汚染も、近年多発している。

有機フッ素化合物とは、水や油をはじく、熱に強い、薬品に強いなどの独特の性質を持ち、撥水剤、乳化剤などに用いられてきた。しかし、蓄

積しやすく、分解されにくいという性質も持ち、発がんの健康リスクも指摘されたため、日本での使用・製造は原則禁止とされている。

では、私達はもうしたら良いのだろうか。

まず、湧き水に関心を持ってもらうことから始めたい。湧き水にあまり関心がないのは水道を使い始めて、湧き水の重要性を感じなくなったからだ。

そこで今私達ができることは、湧き水をもっとアピールすることだ。

このアピールは、一人一人がちゃんと関心を持って、湧き水の必要性を理解できるものではないといけない。例えば学校の避難訓練の際に、湧き水について話してみたり、正しい過の仕方を教えてみるでもいいだろう。しかし、それだけでは子どもに伝えただけで、大人には広まりにくい。だから、ハザードマップや手紙などの大人も見られるであろうものに載せていけば、それだけでもいいはずだ。さらに、安心して飲むための方法も看板に書いておくのも良い。

次に、水質の問題だ。有機フッ素化合物はもう流してしまっていて、取り返しのつかないことだ。だからこそ、もう流さないように地域の人達で協力していかないといけない。正しい方法でろ過できればおいしく飲むことができる。たとえ基地周辺の湧き水が汚染されてしまっているも、その他の汚染されていない場所もあるはずだ。それを知っていれば、命は守れる。

湧き水は地域にとって大切な水資源である。だからこそ、地域のものは地域で守っていかなければならない。きれいに保ち続けることで、自分達が使いたい時に使える。湧き水の出る場所を知っておくこと、伝えておくことで災害の時や困った時に自分自身を守る「自助」、住民どうしが協力して助け合う「共助」ができ、またそれで救助や支援まで命を繋げるために、水の在り処を知っておくべきだ。